



情報流通行政局情報流通作品振興課
製作環境係長

笠井 英和

Kasai Hidekazu

平成22年10月 総務省採用
情報流通行政局放送政策課
平成23年9月 大臣官房総務課国会連絡室
平成24年8月 大臣官房企画課情報システム室
平成26年8月 情報流通行政局地上放送課
平成28年10月 情報流通行政局情報流通振興課主査
平成30年8月 大臣官房秘書課秘書第四係長
令和元年7月 大臣官房個人番号企画室主査
令和2年4月 政策研究大学院大学院
(人事院行政官国内研究員)
令和3年4月 現職



エクス・アン・プロヴァンス政治学院
(人事院行政官長期在外研究員)

小嶋 麻友

Kojima Mayu

平成27年4月 総務省採用
情報流通行政局郵政行政部郵便課
国際企画室
平成29年7月 大臣官房総務課国会連絡室
国際周波数政策室
令和元年7月 総合通信基盤局電波部電波政策課
国際周波数政策室
令和2年4月 総合通信基盤局電気通信事業部
データ通信課
令和3年7月 現職

多様な経験を通じて得られるもの

総務省の外に身を置くことで得られる経験や視点

私は昨年度まで、人事院の行政官国内研究員制度を活用し、政策研究大学院大学で、情報通信分野における様々な政策事例から、効果的な政策に必要な要因に関する研究を行っていました。「ケーススタディ」とは、現実起こった個別具体的な事例を分析し、様々な要因や法則を導き出す分析手法です。実施する環境や主体などの違いから、同一のものが存在しない政策の分析において、個別具体的な事例からいかに多くの要因を導けるかは重要なスキルであり、これまで総務省や他国で実施してきた情報通信政策事例から、成功要因や阻害要因、それらの関係性などを分析する手法を学びました。

業務経験がある程度積んだ状態で、総務省の外に身を置き、日々の業務から一度離れて学術的に政策と向き合う経験は得難く、研究を通し、大きく視野が広がりました。今後は、大学院での経験やネットワークを活かし、実務に反映させていきます。

自己の成長を実感できる仕事

これまで総務省では、放送や情報通信、マイナンバーなど様々な業務に携わってきました。いづれも生活に身近なインフラに関する業務であり、最先端の技術の検討からその技術を活用できない方へのサポートなど、様々な視点でいまを捉える必要があります。そのため、先輩後輩関係なく「〇〇さんはどう思う?」というような問いかけが多く、自分の考えや意見を自然に伝えながら仕事を進めていきます。そこで求められるのは知識ではなくその人ならではの視点や発想であり、それらを伝え合うことで自己の価値観の広がりも感じることができます。また、総務省は、自宅でできる仕事は積極的にテレワーク、という職場であり、超過勤務も最小限に抑えられるよう頻りに係内で業務を調整するため、プライベートに多く時間を割くことができます。総務省の良さはこのような仕事観を持った方が多いことで、仕事でもプライベートでも自己の成長を実感できる職場だと思います。

PRIVATE TIME

以前は職場の仲間でバレーボールや皇居ランで汗を流し、ビールで喉を潤していましたが、コロナ禍で子どもたちと過ごす時間が充実しました。最近是一緒にかけっこをしたり、DVD鑑賞することで気持ちをリフレッシュしています。育児を楽しむことで、日頃の運動不足の解消と仕事への活力をもらっています!



Q 総務省(情報通信分野)を志望した理由は何ですか?

A 官庁訪問で対応してくれた職員の方が、親身に人の話に耳を傾ける姿勢であったことから総務省を希望しました。そのため、本当に自分が興味のある業務に携わることができるか不安もありましたが、総務省は様々なフィールドがあり、入省後には、これまで想像もできなかった自分の関心事項を、業務を通じて発見することもあり、直観ではありましたが、総務省を選んでよかったと思っています。

Q 入省後、成長したと思うことは何ですか?

A これまで様々な業務を経験しましたが、一人で出来る仕事には限界があり、多くの人の関わりを通じて結果が大きく変わることが多いです。そのため、職場のメンバーはもちろん、仕事で知り合った人から様々な情報や経験を聞き、それを仕事に反映する能力は成長していると思います。技術進歩が早い分野の仕事であるため、日々変わる状況に応じた対応力や幅広い知識の取得はもちろん大事だと思いますが、それ以上に、人との関わり方は大切だと感じます。

フランスで振り返る7年間

学び直しの日々

南フランスに位置するエクス・アン・プロヴァンスで、長期在外研究員として研究に従事する、これが現在の私の仕事です。長期在外研究員制度は、若手行政官を対象とした人事院の研修の一つで、2年間の派遣期間で修士号を取得します。この制度のもと、留学一年目の今年は、フランスを中心としたヨーロッパの政治史、比較政治制度、国際関係論などについて、フランス語の激流に飲み込まれそうになりながら学び、議論を交わしています。

講義ではアカデミックな観点が主ですが、ヨーロッパの中での自国の位置付けや、歴史的な課題の提示方からは、EUの屋台骨であるこの国の自画像が透けて見えます。予復習に追われるなか、明瞭な問題設定、バランスの取れた論理展開の技法など、フランスの強かな外交の基盤を掴もうと、日々努力しています。

成長を可能にする場

総務省は、若いうちからやりがいのある業務を担うとともに多様な業務を経験でき、行政官としての成長を感じられる職場だと思います。

私は、入省してから数年、郵便や情報通信技術に関する国連専門機関の担当者として、他国との交渉や百数十カ国の代表団の前で日本の立場を述べるなど、世界の最前線の業務を経験しました。その後、国際分野だけでなく、法律の制度運用も経験してみたいと希望し、電気通信事業の許認可も担当させていただきました。現在は、これらの業務経験を踏まえ、各国の情報通信技術に関する知識や多様なステークホルダーとのコミュニケーション能力を高めたいと思い、フランスにて自己研鑽に努めています。

このように、総務省は成長するための多様なキャリアパスが用意されており、スキルアップすることが可能な職場です。色々なことにチャレンジしてみたい方、ぜひ一緒に働き、ともに成長しましょう。

PRIVATE TIME

週に1冊、学業とは関係のない本をフランス語で読むようにしています。当初は語学力向上が目的でしたが、友人や書店員の推薦本から、移民、貧困、フェミニズムなど今日の社会問題について深く知ることができました。また、時間を見つけては各地の美術館や劇場に足を運び、ヨーロッパの文化を堪能しています。

Q 今後、どのような業務に挑戦したいですか?

A 食や漫画などを通して日本文化はフランス社会に浸透しました。しかし、経済や政治の文脈では日本の存在感は低下していると感じます。今後は、国際機関などで、日本が国際社会の一員としていかに信頼を獲得し、責任を果たすかという課題に取り組んでみたいと思います。

Q 就職活動を行う人に対してメッセージ

A 国家公務員としての職務は、地道で単調だったり、長年の慣習にぶつかったり、もどかしい思いをすることも多々あります。しかし、その一つの積み重ねが、国のかたちの基礎となり、また、自身の経験となります。無数の将来の選択肢から一つに絞るのは不安を伴いますが、自分にとってゆずれないものは何か見つけて踏み出してください。

